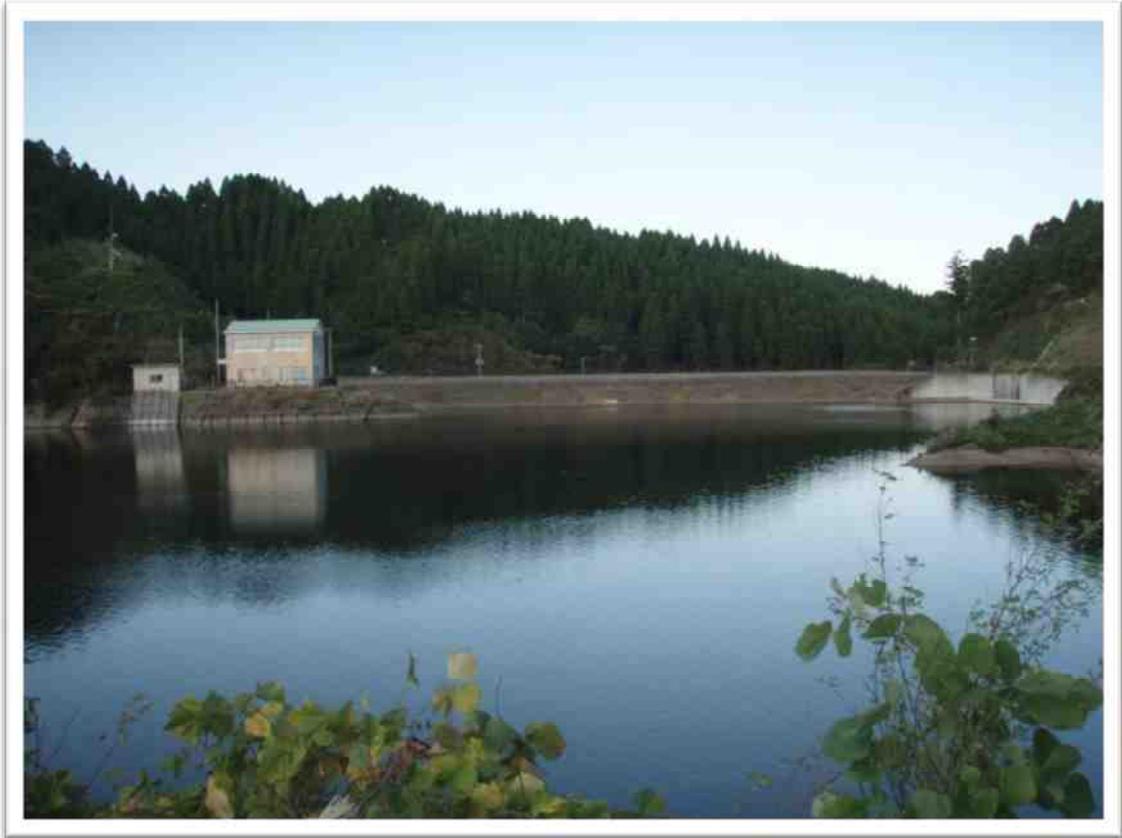


山内ダムとの一体的な整備 ～ 生態系に配慮し営農 ～



満々と水を湛えた農業用の山内ダム

貯水量 : 34万 ton

堤体標高 : TP. 66.60m(写真中央部)

ダム管理事務所 : 長南町管理(写真中央左)

ほ場整備事業（県営担い手）

埴生川Ⅲ期地区（長南町）

長生農業事務所

1 長南町の概要

長南町は、県都千葉市の南約25km、茂原市の南西に隣接した位置にあり、面積65.38㎢を有し、茂原市・睦沢町・長柄町・市原市・大多喜町の2市3町に隣接しています。

地形は、緑豊かな里山を成し比較的起伏のある低山地帯を形成しており、標高では、西部の野見金山が海拔約180mで最も高く、平均で41.18mとなっています。

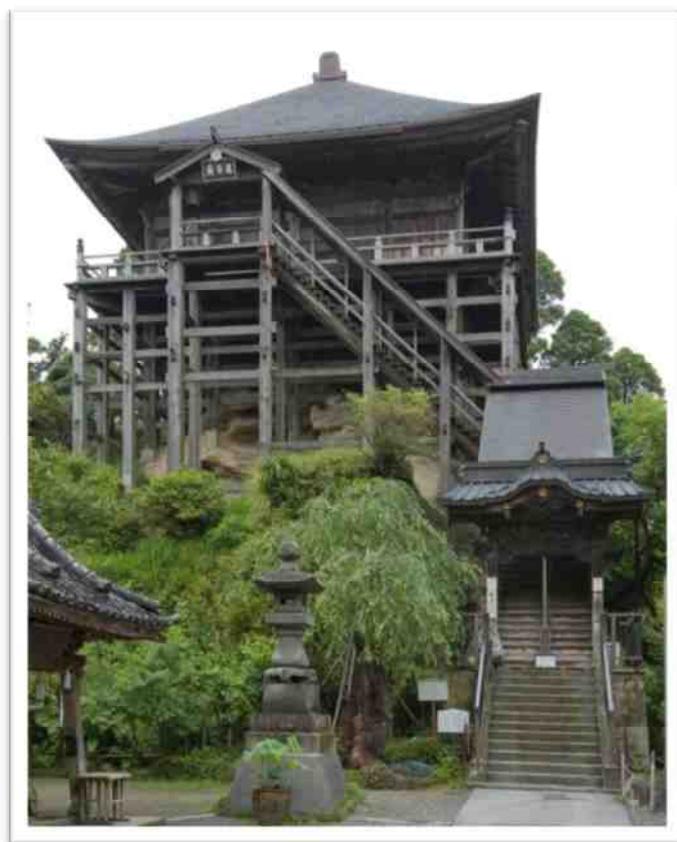
水系は、二級河川一宮川水系にあり、町内に水源を有する一宮川、三途川、鶴枝川、埴生川、佐坪川、小生田川が西から東にかけて流れ、他の市町村を通過しながら太平洋に注いでいます。

これらの河川沿いには良質な水田が存在し、農村集落と背後の里山により長南町の特徴ある風景を形作っています。

本地区のある山内、水沼地先などは、元々は西村と言う村でしたが、昭和30年2月に庁南町と豊栄村と東村の1町3村が合併して、長南町が誕生しました。

「長南」の由来は、古くは上総国長柄郡が南北に細長く、その南半分を長南と呼んで区別したことによるとされています。

笠森観音堂



(四方懸造り・重要文化財)

(1) 長南町の農業

主力産業である農業は、水稻単作の経営が中心で、良質米が生産されてきました。

ちなみに、平成16年の農業産出額は、コメが10億5千万円と最も多く、次いで野菜の4億9千万円、畜産の3億6

千万円の順になっており、耕地 10a 当たりの生産農業所得は 83 千円で低い状況でした。

その後、米作は価格の低迷により、収穫面積・産出額ともに微減であり、畜産の主流である乳用牛においても、飼育頭数・飼育農家ともに減少しています。平成 23 年度の町内の耕地面積は 1,280ha で、耕作放棄地は 362ha でした。

なお、「見通しがきく」として縁起物の食物であるレンコンは、10人で組合を作り産地化されています。

①長南町専兼業別農家数

単位：戸、%

年	区分	総数	専業		第 1 種		第 2 種	
			構成比	兼業	構成比	兼業	構成比	
平成 7 年		1,248	113	9.0	57	4.6	1,078	86.4
平成 12 年		992	106	10.6	72	7.3	814	82.1
平成 17 年		862	130	15.1	44	5.1	688	79.8
平成 22 年		697	133	19.1	36	5.1	528	75.8

資料：農林業センサス

(2) 埴生川Ⅲ期地区の概要

本地区は、千葉県ほぼ中央東部、長南町の南東を流れる二級河川埴生川の最上流及び佐坪川に沿って展開する谷津田地域です。

地区内の標高は、28.07m～71.38mと高低差があり田差の大きい田も多く、水稻単作の農業経営がなされてきましたが、ほ場は未整備であり地形が複雑なため、用水不足や排水不良の田が多く湿田状態を呈していました。

また、耕作道などもほとんどなく、田越しでの農作業であったことから、大型農作業機械の導入などは不可能な労働条件下にあり、農地の汎用化や農業の近代化にはほど遠い状況にありました。

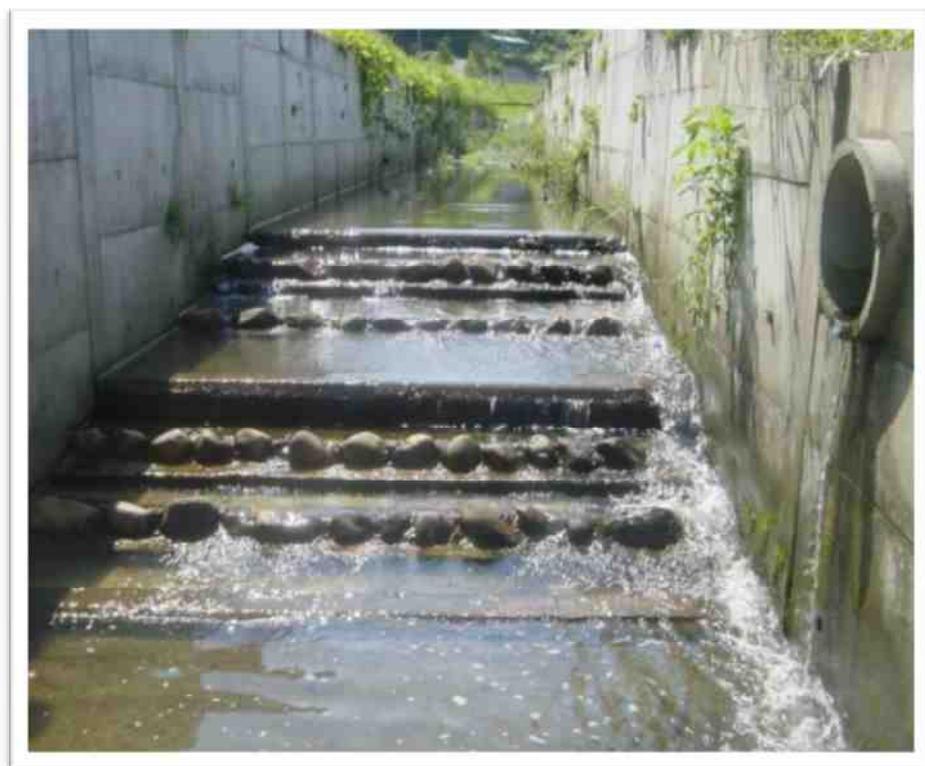
農家の方々は、これらの苦境から脱却して、農作業の効率化と農地の流動化を図ることにより、土地の有効利用と農業経営の安定化を目指すために、次に述べる二つの事業に取り組む気運が急速に高まりました。

2 導入された事業の概要

(1) ほ場整備事業（県営担い手）埴生川Ⅲ期地区

ア	事業主体	千葉県
イ	受益面積	78.4 ha（水田73.3 ha、畑5.1 ha）
ウ	受益者数	291人
エ	事業期間	平成9年度～平成20年度
オ	総事業費	18億8百万円
カ	工事概要	整地工 A = 78.4 ha 用水路工 L = 23.1 km 排水路工 L = 15.2 km 道路工 L = 18.2 km 暗渠排水工 A = 72.9 ha
キ	地元組織	長南町
ク	環境配慮	

本地区では、魚類や両生類などの生物や植物などの生態系に配慮するため、地区の最上流部の一角を生態系保全工法区域に定めるとともに、その場所以外でも動植物にやさしい様々な生態系配慮への工法に取り組みました。



左の写真は、幹線排水路に落差をつけた際に、魚類の稚魚などが遡上できるようにするため、10 cm程度の段差を数段設置し、併せて、自然石を埋め込んだ構造の魚道です。

右の写真は、支線排水路の護岸として、コンクリート製のブロックマットを敷き並べて、カニやカエル、ヘビなどが移動可能な台形断面とし、また、地山からの湧水をキャッチできる構造にしました。



また、その他には、意図的に木柵水路や土水路にして、ところどころの水路底によどを設ける（ステップ・アンド・プール）など、ホタルの生息環境を確保しました。

このような自然環境を保全していくことを目的として、長南町生態系保全推進協議会が設立されました。

ゲンジボタルの乱舞



(平成19年6月18日撮影)

平成25年6月13～17日までの5日間にわたり、同協議会

主催による「圏央道開通記念・第15回 ホタル鑑賞会」が開催されました。

(2) かんがい排水事業（一般型県営） 山内地区

ア	事業主体	千葉県
イ	受益面積	119.0 ha（水田）
ウ	事業期間	平成9年度～平成17年度
エ	総事業費	32億37百万円
オ	工事概要	貯水池工（山内ダム） 一式 農業用フィルダム（中心遮水ゾーン型） 有効貯水量 $Q = 34$ 万 m^3
	放水路工	$L = 559$ m
	付替道路	$L = 2,170$ m
カ	管理者	長南町



上の写真は、ダム入り口に平成21年3月に据えられた竣工記念碑「水潤豊実」（題字：元千葉県知事堂本暁子書）と、ダムの説明看板です。

3 事業の成果

(1) 営農組織の設立

平成9年度から実施していた区画整理工事が、平成16年度に終了したことを受けて、地元では、本事業を契機とした集落営農について、幾度となく検討・協議されました。

当時は、二つの営農組織と2人の担い手が地域の営農の中心でしたが、農業従事者の高齢化や農業の後継者不足の現実を目の当たりにする中で、最終的に地区全体として、一つの営農組織と3人の担い手による営農方針が決定されました。

そして、平成18年3月19日に営農組合を立ち上げ、その後の平成19年7月25日に、「農事組合法人グリーンファーム長南西部」を設立しました。

当時の構成戸数は188戸で、法人役員18名の内オペレーター2名、出資金180万円でスタートしました。

また、作付作物としては、水稻9.8ha、大豆10ha、なばな50a、米の乾燥調整19.3ha相当などでした。

グリーンファーム長南西部ライスセンター



(2) 農地の利用集積

基盤整備の実施に併せて農業用の山内ダムを建設したことにより、従前の天水に頼り田越しの農作業であったものが、各筆ごとに農業用水が供給され、道路付きの田畑になったことから、大幅に農作業時間の短縮が図られました。

また、担い手が設立されたことから、地区内の土地利用も徐々に変化していきました。

下の表は、グリーンファーム長南西部の水稲作付の受託状況を示したものです。

集積状況

(単位：ha)

年 度	受益面積	主食米 (コシヒカリ)	飼料米等 (フサホメ)	計	集積率
事業前	94.8	68.3	0.0	-	-
計 画	78.4	49.1	0.0	-	-
H 2 0	78.4	3.1	0.0	3.1	4%
H 2 1	78.4	8.4	0.0	8.4	11%
H 2 2	78.4	8.9	2.7	11.6	15%
H 2 3	78.4	8.8	4.9	13.7	17%
H 2 4	78.4	11.6	4.1	15.7	20%
H 2 5	78.4	11.9	5.3	17.2	22%

営農組合の設立以来、徐々にではありますが、集積が進んでいることが読み取れます。

また、水稲とは別に、ブロックローテーションによる大豆の作付けも実施しており、規模拡大を検討しています。

なお、作業区域は、基盤整備を実施した埴生川Ⅲ期地区のみに限っており、用排水等が不備な未整備地域などは受託できない現状にあります。

農作業賃金は、コンバインの運転作業以外はすべて時給1,000円に統一しています。

(3) 農作業機械の整備

平成19年の営農組合設立当初は、トラクター、田植機、コンバインなどを、受益者のなかの離農者などから中古品を買い受けて作業を行い、平成21年度にスーパーL資金を使ってトラクターとコンバインを購入しました。

また、田植機とドライブハローは、リースとしました。

基幹作業については、オペレーター2名と法人役員18名のうち10名前後が従事しています。

(4) 販路の確保

この地域は、地形的に中山間地域であり、土質が重粘土であることから、米作りには適していますが、畑作物の栽培には不向きな土質、地形です。

そのため、やはり米作りが中心となり、ほとんどは農協に出荷しますが、おいしいお米として商品名を「にしむら産の米」と命名して、町内のゴルフ場に食事用と小売り用として納入しています。

まだまだ、納入数量は少ないのですが、独自の販売ルートの確保を模索しているところです。

(5) 組織の再編

従来からの営農組合は、平成25年11月24日に「農事組合法人長南西部営農組合」として再編がなされました。

この理由の一つとしては、長南町内の営農を大別して3組織に分けて、大規模経営が可能になるようにするためです。

二つ目は、本地域の対象農家の拡大を図り、ライスセンターの稼働率を高めるためです。

4 今後の課題と改善方法

(1) 今後の課題

ア 後継者の確保

平成25年度時点で、中心的に農作業に従事している年代は全て60歳以上であり、営農組合に従事できる若い世代がないのが実態です。

水稻と大豆を中心とした営農であり、とても営農組合へ

の従事だけでは収入が少なすぎるためです。

今後は、通年型の作付けに取り組み、年間を通しての雇用を確保することが最優先の課題となっています。

イ 有害鳥獣対策

地区内の山林沿いには、イノシシやシカが出没するようになり、農作物に被害が出るようになったことから、町や地域として有害鳥獣対策に取り組まざるを得ない事態となりました。



そのため、地域を中心として、県や町、猟友会と連携を取りながら、出没する地域に防護柵や電気柵、またオリを設置して侵入防止や捕獲を行い、被害の軽減に取り組んでいます。

5 その他

(1) 調査協力機関

- ア 農事組合法人グリーンファーム長南西部
- イ 農事組合法人長南西部営農組合
- ウ J A長生長南支所
- エ 長南町

(2) 参考図書等

- ア 農業センサス（2010年版）
- イ 長南町第4次総合計画（平成23年3月）
- ウ 千葉県農林水産業の動向（平成23年度版）
- エ 千葉の園芸と農産（平成24年4月）